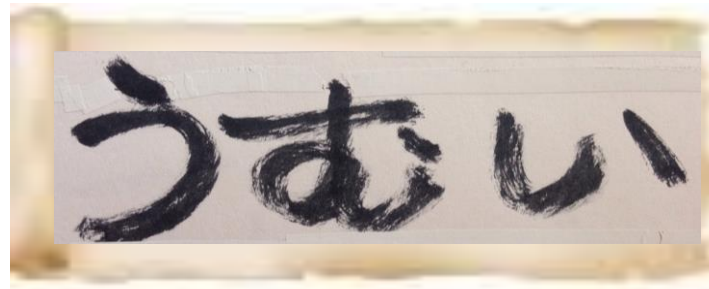


第56号

令和2年6月1日発行



発行
うむい合同会社

〒904-2164
沖縄市桃原2-16-37
電話:098-988-5598

おとなの寺小屋

うむいぬうふやー

〒904-2164
沖縄市桃原2-16-37
☎ 098-988-5598
FAX 098-988-5600



あしあと
利用者ものがたり。
比嘉盛二郎さん編

しあわせはあとからついてくるもの

(出会い、別れ編)

おまたせいたしました。
盛二郎さんの『あしあと』第三弾です！
はじまり、はじまり～！

牧師をしていた父親のような男になるため、
学生のころから牧師になるための勉強をしたり、ピアノを練習したりと自分のすきな夢を叶えるため、忙しいながらも充実した青年時代でした。

中学校にあがると、父の転勤で石垣島や与那原へ転々としていました。
この時、盛二郎さんが一番たのしかったという思い出は与那原大綱引き祭。
積極的に参加し、役割は綱をひくときに『よいしょー！』と鐘をならしたり、リズムよく鐘をならしたりと、このときから指揮をとっていました。絶対音感をもっている盛二郎さんには、うってつけの役割。

うふやーでも盛二郎さんの存在は大きくて、音楽の授業では、盛二郎さんのピアノ伴奏でうたうことがよくあります。

盛二郎さんも本当は大きな声でうたいたいはずです。あえて裏方にまわりコーラスでみんなに気持ちよくうたってもらったりと、とてもジェントルマンです！音程が盛二郎さんにつられて、気づいたら全員がコーラスになっているときもあります(笑)

首里高校へ入学すると勉強もスポーツもトップで、いつも親友二人とともに過ごし、たのしい学校生活でした。ですが、父親の転勤にて石川高校へと転校しました。

『出会いと別れ』はたくさんありましたが、夢はぜったいあきらめない！と奮起しました。

『教会学校の音楽教師として、バリバリはたらいしていたよ！』となつかしい思い出をふりかえりました。

そして、1990年から、夢であった教会牧師になりました。夢をおいつづけ、実現させた盛二郎さんは、節子さんと出会い結婚しました。

盛二郎さんに負けないぐらいとても優しく、仕事から帰るとマッサージをくれたそうです。そして、今では栄養管理できるように、うむいの昼食を全部メモしてもらって確認してから、節子さんがメニューを考えるそうです。

どうしたら、お二人のような素敵な夫婦のようになれるのでしょうか。僕は、再びききました。「秘密！」と即答でした。うまくいく秘訣はわからないままですが、盛二郎さんの『あしあと』をたどると、夢をあきらめず、相手をおもいやる気持ちがあれば、しあわせになれるものなのかなと思いました。これにて、盛二郎さんの『あしあと』をおわります。

文：佐和田裕也



4年ごしに実った、
うふやーのマangoー。



誰もがうらやむ美男美女。



うふやーおしどり夫婦。

図画工作
吹き絵編

用意したものは… ストローと絵の具、のまんてよー(笑)

先日、狩りをしに行くため、「吹き矢」の練習をしました。
というのは冗談で、図工の授業で『吹き絵』をしました。
千秋先生の授業は発想がすごいです！
職員の「フーって少し息をふいてみてください」の声かけに、吹き矢のように思いっきり息をふく利用者さん。
散った絵の具をみてみんな大爆笑。わらいすぎて今度は息がふけなくなり(笑)

ある利用者さんは、「オーバーになったら、なにもできないよ」といっていました。でも、作業をはじめるとスタッフに「はい！青もってきて！はい！つぎは赤！」と指示。ペースのはい作業に絵の具の補充がおいつかない…。

絵の具とあわせて使う水もなくなってきました。「もう水たりないんじゃないですか？」と、スタッフがたずねると、利用者さんが「だー？」といって、紙をめくるときのように指をなめて口からの水分で補充しようとしていました。集中しすぎて自分の横に水があることもわすれていました(笑)

それが、水がもったいないと思ったんでしょうか？うむいは、ちゃんと水道代を払っているの心配しないで使ってください(笑)

そうこうしているうちに、みなさんの個性あふれる素敵な吹き絵が完成しました。「うまくできた」「きれいだね」「あんたのもきれいさー」と、お互いをほめ合いました。

みなさん！これはただの吹き絵じゃありませんよ！これから、利用者さんが飲み物をおくコースターになります。完成したら次号の月刊うむいにて掲載したいとおもいます！

(※誤飲防止のため、しっかりスタッフ見守りのもとで行っています)



ていねいに、ていねいに。



職人の顔をしています。



吹き矢のようにふいて
大爆笑！



かんせーい！



じゃじゃーん！

次の、うむいっ子までには
コロナ終息していますように。

また、子どもたちと一緒に
活動できることをたのしみ
にしています。